「あんぱん」と鉄道
～朝ドラのちょっと不思議な楽しみ方～

函館市医師会
函館市医師会検診検査センター
水関（みずせき）　清（きよし）

2025年３月31日に放映が開始されたNHKの連続テレビ小説は、漫画家・絵本作家・詩人のやなせたかし（1919-2013）の妻、小松暢（のぶ）（1918-1993）をモデルとした、「あんぱん」であった。「男勝りの女性」を指す土佐弁である「はちきん」を冠した「はちきんおのぶ」の存在が、さまざまな職業を転々としながら定まらない人生を送っていたやなせの脱皮を促し、彼が終生にわたって追い求めた“逆転しない正義”を体現した「アンパンマン」にたどり着くまでを、夫婦それぞれの一代記として描かれていた。

「はちきん」を印象付けるためか、第１回の冒頭部から、のぶの子役は、着物姿で後方から迫るSLと競走しながら彼岸花の咲く畦道を走って「御免与」駅に向かっていた。駅の改札口で出迎えたのは、追い抜かれたSLから降り立った父親役の俳優。子役のすぐそばには、旅客運賃表が掲示された出札窓口。時代設定は1927（昭和２）年、運賃表の表題は右書き、駅名は縦書き、そして運賃も縦の漢数字である。子役がはしゃぎ回る様子が長く描写されていたため、つい運賃表の駅名に目が行く。當驛（＝御免与）の両隣は、「一宮（いっく）」と「土佐大津」。「一宮」の左隣は「高知」で、さらにその先は「旭」「朝倉」「伊野」「日下」「土佐加茂」「西佐川」「佐川」「斗賀野」「吾桑」「須崎」と続く。「土佐大津」の右隣は「土佐山田」、次いで「立田」「野市」「赤岡」「岸本」「手結」とある。このドラマの舞台は「御免与（ごめんよ）」という架空の街であるが、そのモデルは「後免（ごめん）」という、高知県南国（なんこく）市域に属する実在する町で、その代表駅は「後免駅」である。

実在するほうの「後免駅」は、JR四国の土讃線と土佐くろしお鉄道のごめん・なはり線（以下、ごめん・なはり線）の駅である。高知県の土讃線は、須崎駅からの高知線建設に始まり、1924（大正13）年３月に日下駅、11月に高知駅、1925（大正14）年12月５日に土佐山田駅まで延伸されたが、後免駅の開業は、この延伸時のことであった。「御免与驛の旅客運賃表」に掲示された高知～須崎間の駅名は、すべて実在する駅名と一致するが、不思議なのは、「高知―　一宮―當驛（＝御免与≒後免）―土佐大津―土佐山田」の駅順である。現在の駅順は、「高知―土佐一宮―土佐大津―後免―土佐山田」であり、高知―後免間にある「土佐大津」が、「旅客運賃表」では御免与（≒後免）―土佐山田間にあると表示されている。

ごめん・なはり線の開業は、2002年７月１日のことであるが、この線は前身ともいうべき存在の「土佐電気鉄道安芸線」の路盤を活用して建設された部分と、室戸岬経由で徳島県牟岐駅との間を結ぶ四国東部の循環線の一角をなすために新設された部分とからなる、「日本最後のローカル新線」と呼ばれるユニークな存在である。後免駅から、現在のごめん・なはり線の各駅をたどると「後免―後免町―立田―のいち―よしかわ―あかおか―香我美―夜須」となるが、これらはほぼ「旅客運賃表」の「土佐山田」以降に掲示された駅である。

ドラマの中で、父親は次の出張先について話す。行き先は、朝鮮の京城だという。取り出した「列車時間表」の「鐵道線路略図」には、土讃線は須崎～高知間のみで、御免与～高知間の路線は表示されていない。これとは別に、御免与から高知市内を経て西方の伊野までの路線の表示があるが、これは1925（大正14）年２月に全通した路面電車である、土佐電気鉄道線であろう。この線が掲示されているのに、同年12月に開業した高知～後免～土佐山田間が表示されていないことから、この「列車時間表」は同年２月から12月の間に発行されたことになるが、そのような古い情報での出張計画は心許ない。

その後、ドラマの場面は1936（昭和11）年に遷移して、のぶの師範学校入学が描写される。学校の寮と自宅との往復のため、御免与駅の構内がたびたび映し出される。自然と視線は、「旅客運賃表」に吸い寄せられるが、何か変である。

表題は左書きとなり、これまた左書きで「當驛からの運賃」という小題が追加されている。一覧内の駅名は横書き、運賃も横数字である。駅名一覧は賑やかさを増している。土讃線延伸のために「土佐山田」までだった駅名には、徳島県境に近い「豊永」までの６駅が追加されている。土佐電気鉄道安芸線のほうも延伸が図られ、「手結」までだった営業区間には、「安藝（あき）」までの６駅が追加されているが、いずれも歴史上の実在である。

御愛嬌なのは、この９年間に運賃が微妙に変化していることである。土讃線方面では、御免与のお隣の「（土佐）一宮」までは10銭→11銭と１銭の値上げなのに、３つ隣の「旭」までは23銭→22銭、４つ隣の「朝倉」までは28銭→27銭と各１銭値下げである。土佐電気鉄道安芸線のほうは、２つ隣の「野市」が18銭→15銭と３銭の値下げ、４つ隣の「赤岡」までは29銭→21銭と８銭の値下げ、５つ隣の「岸本」までは32銭→28銭と４銭の値下げと、多彩な大盤振る舞い？がみられる。

ドラマ制作の小道具係の仕事の詳細にまでは十分な時代考証が行き届かなかったためだろうか。あえて目くじらを立てることではないが、土讃線もごめん・なはり線も、現在でも乗車可能な貴重な鉄道路線である。土佐電鉄は「とさでん交通」と名を変えて、後免線も健在である。高知市内から後免町まで行く在来型電車の先頭部には、菱形の赤い地板に「ごめん」と大書された方向板が掲げられている。

商品化された「ごめん」という方向板型ミニタオルは、ちょっとした失敗を、笑いに包んで謝る際に活用されるという。